

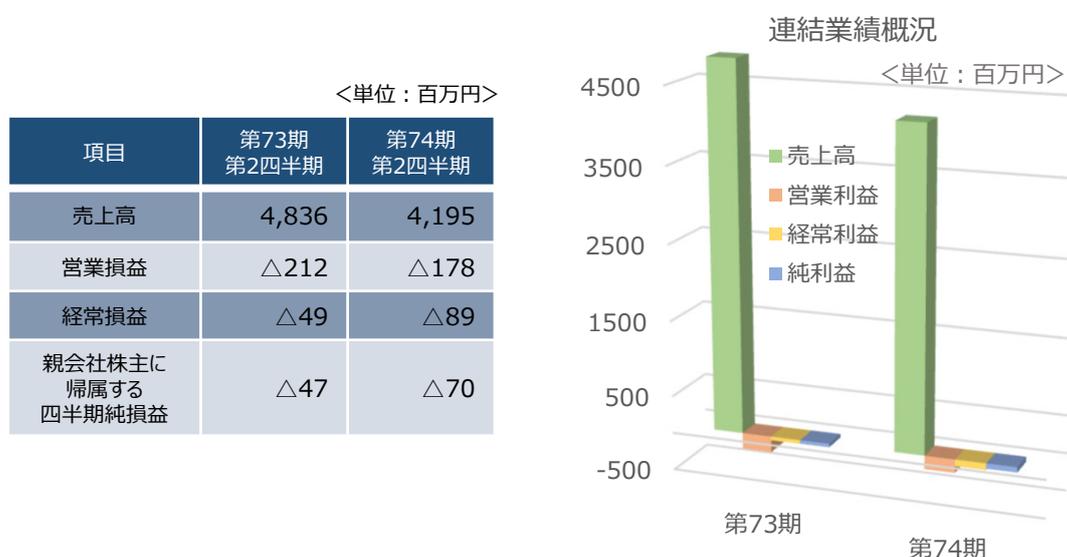
## 平成31年 3月期 第74期 業績概要 第2四半期

桂川電機株式会社

当第2四半期連結累計期間(平成30年4月～平成30年9月)におけるわが国経済は、企業の設備投資は増加傾向となり、底堅い内外需を背景に緩やかな景気回復基調が継続する一方、国内での自然災害の影響、米中貿易摩擦の激化への懸念や米国などによる対イラン経済制裁における原油供給不安から原油価格が上昇するなど先行きに不安材料を残した状況で推移いたしました。世界経済は、緩やかな景気回復が見られるものの、米中貿易戦争の激化で世界貿易の減速が懸念され、新興国の景気後退や通貨不安など世界景気に陰りが見え始め、海外経済の不確実性は高まっており、先行きの不透明感が払拭されない状況で推移いたしました。

こうした中、当社グループにおきましては、国内及び海外での企業間価格競争の激化は依然として続いておりますが、売上高の回復を目指して北米市場や欧州市場の販売戦略を強化し、国内やアジアに向けては、『国際総合印刷展IGAS2018(東京ビッグサイト)』(2018/7/26-7/31)に出展する等、潜在的な顧客層に対する大判型カラープリンターニーズを掘り起こすための活動を展開し、将来にも向けた売上げの向上と利益の確保を目指してまいりました。開発生産面においては付加価値の高い新製品の開発と経費削減を進めてまいりました。

しかしながら、当社グループの当第2四半期連結累計期間の連結売上高は、アジア圏での販売は伸びましたが、堅調に推移していた北米での販売が減速したため41億9,500万円と前年同四半期の48億3,600万円に比べ、6億4,100万円の減収となり伸び悩む結果となりました。営業利益は売上げの減収により大きく影響を受けましたが、売上原価は前年同四半期に比べ低減出来ていること等から、1億7,800万円の営業損失(前年同四半期は2億1,200万円の営業損失)、経常利益は為替相場の変動による為替差益を計上したことにより損失は圧縮され、8,900万円の経常損失(前年同四半期は4,900万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は7,000万円の純損失(前年同四半期は4,700万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。





当社が従来より展開している市場に加え、今後成長が見込める新たな分野として、従来より開発を進めてきましたセラミック用途向けデカルプリンター、スポーツユニフォームなどアパレル産業向け昇華転写捺染用カラープリンター、交通標識等向けの反射素材用特殊UVインクジェットプリンター等にも注力し従来製品とあわせた売上の向上と利益の確保を目指しております。

北米市場におきましては『SGIA Expo 2018』（2018/10/18-10/20,ラスベガス）に出展する等、売上の回復を目指した販売戦略を展開しております。

また、付加価値の高い新製品の開発にも注力しており、今後の売上に貢献する事と期待しております。

当社グループとしましては、安定した製品等の供給と更なる生産及び経費等の改善により業績の向上に注力してまいりましたが、当第2四半期の業績が、第1四半期の業績から下方に変動し、さらに通期の連結業績予想値を下回ったこと、国内及び海外での依然として止まらない企業間価格競争の激化に加え、下期に向けてアジア及び北米での販売に減少傾向がみられること等、現在入手可能な情報に基づき検討しました結果、これらの状況を踏まえ通期連結業績予想を修正いたしました。

<単位：百万円>

	2018/5/18 通期予想	2018/11/13 修正予想
売上高	10,000	9,300
営業利益	200	△200
経常利益	170	△90
親会社株主に 帰属する 当期純利益	80	△50

当社は、全国の証券取引所の『売買単位の集約に向けた行動計画』の趣旨を尊重し、平成30年10月1日をもって、当社普通株式の単元株式数を1,000株から100株に変更いたしました。また、平成30年9月30日の最終の株主名簿に記載されました株主の所有株式数について、10株を1株の割合で併合いたしました。

株式併合前の発行済株式総数 (平成30年9月30日現在)	15,525,000 株
株式併合により減少する株式数	13,972,500 株
株式併合後の発行済株式総数	1,552,500 株